

## 苦しむタミル人 声届けたい

看護師 武田 未央

(岡山県和気町 35)

スリランカで25年以上も続いた内戦が反政府軍の敗北という形で終結し、北部で暮らしていた少数派タミル人民衆は苦境に追いやられている。

私は04年から05年にかけての1年余り、NGOの看護師として北部の町に派遣され、タミル人と共に生活した経験がある。物がなく、人々は貧

しかった。しかし停戦中の時期だったので、人々は安全に家族と一緒に暮らしていけることにつかの間の幸せをかみしめていたのではないかと思う。人々はたまたまタミル人として生を受けたただけだ。何の罪もないのになぜ幾度も死に直面し、苦痛を味わわなければならぬのだろうか。

抑圧された弱い立場の人々は常に厳しい状況に置かれ

る。政治や世の中の不公平に対して、自らの権利を求めするために立ち上がらざるを得ない。そんなタミル人の気持ちをお皆さんにも知ってほしいと思う。

私が帰国する際に、一緒に働いていた現地のタミル人看護師が「もう会えないかもしれないよ……」とつぶやいた。彼女のその言葉の重みを今になって痛いほど感じている。国際社会にあの人々の声をもっと届けたい。